

ロータリーの奉仕は **職業**を通じて

社会に奉仕、貢献することです。

一人一人の奉仕の精神が基本です。

「不易流行」という言葉があります。

「不易」とは、いつまでも変わらないこと。

「流行」とは、時の流れ、時代に応じて変化すること。

ゆえに ロータリーにおいても 継承して行かなければ
ならないことと、その時々 その社会情勢の変化に
対応していくという 両面があると思います。

ロータリーにおける「不易流行」とは何かと考えた時に
ロータリーの目的は、

第一に 知り合いを広めることによって奉仕の機会とする。

第二に **職業**上の高い倫理基準を保ち役立つ仕事は
全て価値あるものと認め社会に奉仕する機会とし
ロータリアン各自の**職業**を高潔なものにする。

第三に ロータリアン一人一人が事業及び社会生活に
おいて奉仕の理念を実践する。

第四に 奉仕の理念で結ばれた**職業**人が
世界平和、親善のために国際社会を理解し推進活動するために
クラブ奉仕・**職業奉仕**・社会奉仕・国際奉仕の
四大奉仕が位置付けられている。

奉仕活動の中で

「不易流行」の「流行」とは

社会情勢の変化に 対応していく部分の

対外奉仕活動である 社会奉仕 と 国際奉仕 である。

ロータリーの創設者である ポール・ハリスの言葉に

ロータリーが可能性を求めて 常に変化し

時には 大きな変化をしなければならないという言葉があります。

対外的な奉仕活動である 社会奉仕 と 国際奉仕は

時代の変化の中で社会からの要求、期待される

奉仕活動に変わる必要がある。

この2つの奉仕が「流行」であると思います。

もう一つの「不易」とは

ロータリーがロータリーであるために 変わってはいけない部分があります。

クラブ奉仕と**職業奉仕**が ロータリーの根幹と言えるからです。

1905年にRCが設立されたときは

親睦と会員同士の相互扶助を目的としたクラブで

奉仕の概念は しっかり確立されて初めて他の奉仕活動ができます。

それゆえに 親睦の基本は、例会出席です。

他の奉仕団体と全く異なるのは **職業奉仕**という理念を持っていて

会員の**職業**に高い倫理観を求めていること。

ロータリアンは、自らの**職業**における倫理基準を高め
職業を通じて 社会に貢献することが求められています。

ロータリーにおいて変えてはならない「不易」とは
会員同士の親睦と 会員の**職業**における 倫理観を高めていくこと。
つまり、

クラブ奉仕と**職業奉仕**である。

職業奉仕の不易の部分を忘れて

対外的な奉仕活動の 流行だけを追いかけると

RC は 他の奉仕団体と変わらぬ団体になってしまうでしょう。

奉仕活動に力を入れるためにも個々のロータリアンそして

クラブは ロータリーの原点である 例会への出席をすることにより

会員同士の親睦はもとより **職業奉仕**の理念を 今一度確認する
必要があるのではないのでしょうか。

Eクラブへのメーキャップも便利で最高です。

できれば、他のクラブの例会に出席してみると

自分のクラブとの比較が出来き、面白いこともあり、楽しいこともあり、

そして、多くの人を知ることにより 自分自身の人間力を

高めることも出来、さらに 人となりを知ることができ、

たくさんの経験が出来きますので、メーキャップは、

出来るだけたくさんのクラブの例会に 出席されることをお勧めします。

職業奉仕を語る上で

どうしても避けては通れないところがあります。

それはロータリーの綱領と CLP の問題です。

ロータリーの綱領は、ご存知のように4つの項からなり、それぞれが

クラブ奉仕部門、**職業奉仕**部門、社会奉仕部門、国際奉仕部門
というように、4つの部門に当てはまります。

ところが今、CLP が国際ロータリー理事会より提唱されました。

CLP は会員組織部門、奉仕プロジェクト部門他5つの部門で
構成されており、**職業奉仕**は奉仕プロジェクト部門の
「小委員会」に属しています。

これはクラブにおいて必ずしも小委員会は 作らなくてもよいという
ものであり、クラブによっては**職業奉仕**委員会がなくなってしまう
可能性があります。

何故そのようなことを言うのかというと、
一般会員のみならず、会長、幹事さえ

「**職業奉仕**とは何か」を理解せず、他の委員会と比べ

「あまり目立った活動をしなない、わけのわからない委員会」であるという

考えから、CLP において、**職業奉仕**がクラブ委員会から
なくなってしまう可能性があるのです。

そうならば、ロータリーの基本理念である

この**職業奉仕**を誰が説明するのでしょうか。

基本理念無きクラブになってしまうのではないのでしょうか。

今、クラブで**職業奉仕**が語られることが少なくなってきました。

CLP が実施されようとする今こそ、ロータリーの原点である

「**職業奉仕**」を理解し、他団体との違いを認識し、

ロータリアン全員が「ロータリーに入ってよかった」と思っていただけの
クラブ作りをしなければなりません。

そのためには、クラブ**職業奉仕**委員長自らが

職業奉仕を理解し、

クラブ会員全員に「**職業奉仕**とは何か」を話さなければなりません。

これが、クラブ**職業奉仕**委員長の
最も重要な役目ではないでしょうか。

理解しただけで、人前で話をするのは

決して易しいことではありませんが、それを勉強し、

伝えなければならないのはクラブ**職業奉仕**委員長の

役目ではないかと思えます。

無理のないサービスをしよう

「ちょっとした驚き」がいい

おもてなしをするときには、相手のニーズを探ったうえで、
「できるだけ小さなサービス」を
「継続的に行なっていく」ことがポイントとなります。

「大きなサービスをしたほうが、

お客様に喜んでいただけるのに。なぜ？」

という疑問を抱くかもしれませんね。

たしかに、特別なサービスは「わあ、すごい！」

とお客様を喜ばせることができますが、

「マズローの欲求段階説」にあるように、一度、

高い欲求を満たされたお客様の要望は、さらに高い欲求を求めるようになり、どんどんエスカレートしていきます。

たとえば、雑誌に

「〇×というレストランのサービスは素晴らしい」と

書いてあったので出かけたものの、

実際は期待感よりも低いものであったら、がっかりするどころか、

「おたくは誇大宣伝をしているのか！」

とクレームにもなりかねない。

それがたとえ一般的に見れば十分、
質の高いサービスだとしても、
お客様の期待値が高ければ高いほど、
要求は厳しいものになります。

よかれと思ったサービスが、
のちのち自分たちの首をしめることにもなりかねない。

これが、大きなサービスを提供した場合の弊害なのです。

たとえお客様に喜んでもらえたとしても、
その質を維持するために従業員が毎日残業の連続で
ヘタヘタになるまで働いたり、無理をするようにでもなれば、
それも問題です。

サービスを続ける体力が提供側にはないわけですから、
質の高いサービスを継続的に提供し続けることが
むずかしくなります。

こんな理由からも、初めから大きなサプライズではなくて、
身の丈のサプライズ —— B級サービスを
考えたほうがいいですし、
B級だって人の心を打つことは十分にできるのです。

最近、ホテルでも、
形から入った過剰なサービスが目立つように感じます。

もちろんお客様にとっては嬉しいことですが、サービスの質を上げるにはたくさんの人の手が必要になりますから、人件費がかさみます。

そうなれば宿泊料もそれなりの値段にしなければならなくなります。

それでは一部のお客様しか利用できません。

もちろん最上級のサービスを提供する、最上級のホテルは必要です。でも、すべてのホテルが無理をしてまで最上級を目指さなくていい。

- ◇ **無理をしない身の丈にあった
おもてなしがきちんとできること。**
- ◇ **心からの感謝の気持ちを伝えること。**

感謝の気持ちを素直に表現できるサービスは、どんな人工的なサービスよりも勝るのです。

●職業奉仕を考える

ロータリーの目的の一つは、日々の仕事を通して 社会に貢献するために、奉仕の心を育て 向上させることです。奉仕とは他人のために役に立つこと、他人のニーズを 満たすことを 自己の責務として行うことです。ロータリーの目的は、職業を通して 社会のいろいろな ニーズを満たすこと、ということであり、職業奉仕とは、職業を通して社会のニーズを ほぼ完全な形で 満たせるよう努力を重ねるということです。それによって、自己の職業の 品位と道德水準を高め、社会から尊重される存在になることができます。

●職業とは

われわれの社会では、人は日々なんらかの仕事をし、それによって報酬を得て生活の資としています。

そうした仕事を職業という。

毎日仕事をするといっても

趣味や道楽でする仕事、

主婦の行う家事や育児、

ボランティア活動などは

職業とは いません。

また、たとえ生計を維持するためであっても、

盗みや、ばくちをするなどの

反社会的な活動は職業ではありません。

職業は、生計を維持するための

継続的で分担的な、

社会的に有用な活動と定義されます。

● 職業奉仕

- ① 規則的に従事し、そのための訓練を受けた職業
② (弁護士・医師・教師など) 専門的知識を要する職業

職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものです。

会員は、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行います。

職業奉仕は、ロータリアンがそれぞれの職業を通じて 他の人々に奉仕し、高い道徳的水準を保つことを奨励するという考えかたです。

この職業すなわち vocation という語は business, job, ^①occupation や ^②profession という語に 比べて、神から授けられた 仕事(天職)、社会生活における分業の担い手、職分、人に必要とされる職業というようなニュアンスが強い言葉です。このことを考え合わせていただければ、職業奉仕の理念がよりよく理解できると思います。

1975年7月 八潮 RC 創立会員
 1980年7月 八潮ロータリークラブ会長就任
 1986年2月 「家庭紙ひとすじ60年」発刊 タナベ経営出版部より
 1994～95年 RI 第2770地区 ガバナー
 1996～98年 ロータリー財団地域コーディネーター(RRFC)
 1997～98年 RI 国際協議会 トレーニング・リーダー
 1997～01年 RI ロータリー財団恒久基金日本研究グループメンバー
 1997～13年 地区大会のRI会長代理15回(海外5回含む)
 1998～99年 RI ロータリーの夢委員会 委員
 1999～01年 RI 指導力養成・研修委員会 委員
 2000～01年 RI 他団体との提携グループ委員会 委員(ゾーン2)
 2001～02年 RI 2002年バルセロナ国際大会推進グループ 委員
 2001～02年 RI ロータリー百周年記念事業基金委員会 委員
 2001～02年 RI ロータリー社会奉仕プログラム 委員
 2001～03年 RI ロータリー・センター実施グループ 委員
 2001～03年 RI 世界平和奨学生選考委員会 委員
 2001～05年 ロータリー財団の恒久基金日本委員会 委員
 2002～03年 RI 地区大会検討委員会 委員
 2002～03年 ビチャイ・ラタクル RI 会長主催アジア平和会議 副委員長
 2003～05年 国際ロータリー理事(ジョナサン・マジアバ&グレン・エステス)
 2003～05年 ロータリーゾーン研究会招集者(2003年東京・2004年広島)
 2003～05年 ロータリー・センター委員会連絡担当理事
 2003～04年 大阪国際大会推進連絡担当理事
 2004～05年 グレン・エステス RI 会長主催祝賀会議 実行委員長
 2005～06年 TRF Member of Chairman's Advisory Committee
 2005～07年 TRF Member of Rotary Peace Center
 2005～08年 ロータリー財団の恒久基金日本委員会 委員長
 2005～10年 ロータリー財団未来の夢委員会 委員
 2006～07年 ロータリー世界平和シンポジウム組織委員会 委員(国際大会)
 2006～07年 2008-09年度RI会長ノミニー指名委員会 委員
 2006～08年 ロータリー財団の資金開発委員会 委員
 2006～08年 2008年ロスアンゼルス国際大会委員会 委員
 2006～10年 TRF ポリオ撲滅提唱グループ 委員
 2006～10年 ロータリー財団管理委員会 委員
 2007～09年 ロータリー財団学友諮問委員会連絡担当管理委員
 2007～09年 2009 バーミンガム国際大会委員会 委員長
 2008～09年 2010-11年度RI会長ノミニー指名委員会 委員
 2008～09年 ロータリー財団の資金開発委員会 委員長
 2008～09年 ロータリー財団の恒久基金日本委員会 副委員長
 2008～10年 ロータリー財団執行委員会 委員
 2008～09年 RI 職業奉仕委員会 Liaison Trustee
 2008～09年 Liaison Trustee of the NPO Rotary Foundation Japan
 2009～10年 ロータリー財団財務委員会 委員
 2009～10年 恒久基金台湾・ホンコン・マカオ委員会 Liaison Trustee
 2009～10年 恒久基金日本委員会 Liaison Trustee
 2012～13年 国際ロータリー会長に就任
 2012～13年 国際大会会長としてポルトガルのリスボンで国際大会を主催

2012～13年 妻京子と共にバチカンでローマ法王に接見
 2012～13年 Honorary Mayor～President City of Baton Rouge
 2013～14年 RI Representative for Peace Philanthropy Symposium
 The Hague
 2013～14年 RI 会長代理に就任 ハワイ 5000 地区 を訪問

財団基金設立

田中作次冠名世界平和 Fellowship 基金設立
 田中作次冠名基金 Fellow の送り出し累計 6 名

表彰

超我の奉仕賞、RI 会長賞、ロータリー財団功労賞
 ポール・ハリス・ソサエティ創立会員、米山功労者
 アーチ・クランフ・ソサエティ創立会員、メジャードナー
 財団遺贈友の会創立会員、ロータリー財団特別功労賞
 名誉平和博士号受領(インドの名門大学)
 ロータリー財団への寄付額累計 1 億円達成 (2012-13 年度)

生年月日

1939 年 2 月 4 日 新潟県長岡市二日町にて誕生

学歴

1958 年 3 月 東京都立墨田川高等学校夜間部卒業
 その後日本経営大学院そして東京経営大学院で学ぶ

職歴

1954 年 4 月 山谷硝子工業株式会社に就職
 1955 年 7 月 東京墨田区にあった小さな田中文房具店に転職し間もなく田中家の養子となり阿部作次から田中作次に代わる
 1965 年 8 月 25 日 (有)田中紙店社長の田中米二逝去
 1965 年 11 月 田中作次が (株) 田中紙店社長に就任、数年後(株)タナカに名称変更
 1995 年 8 月 株式の店頭公開を
 1996 年 7 月 北海道札幌のダイカ株式会社と合併、商圏は東日本全域になる
 1996 年 7 月 田中作次がダイカ株式会社取締役会長に就任
 2003 年 6 月 田中作次は株式会社ダイカを退職
 2003 年 7 月 ダイカ退職後は 10 年以上にわたりロータリー活動のみに専念中